

JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）7月号

1. 鳥取短期大学・鳥取看護大学の学生に特産品を進呈！（コロナ禍の学生を応援）

新型コロナウイルスの影響を受けている地域の学生に向けた応援プランを企画した。特産の野菜・果実の提供や旬のスイカの試食会を行い、活動の内容を学生らにSNSで発信してもらうことで、特産品のPR・消費拡大に繋げていく。

6月3日には倉吉市の鳥取短期大学と鳥取看護大学の学生らに栗原組合長と戸田勲常務が特産品を進呈した。

両大学の一人暮らしや寮生活を送る学生約200人が対象で、学生一人に対し米「星空舞」2kg・プリンスメロン1玉・大原トマト2玉・神倉大豆を使った水煮「神のつぼみ」1袋を提供した。

食費や携帯代金などをアルバイトから算出している学生も多く、コロナ禍でアルバイト収入が減り、切り詰めて生活している学生も少なくないという。一人暮らしをしている看護学生は「親から仕送りしてもらう食材などで日々の食事を考えている中で、地元の素晴らしい食材を頂けて凄く助かった」と話していた。

栗原組合長は「コロナ禍の中でも農家は食と命を守るために良品多収な農産物の安定供給を目指している。農家の苦労や努力を感じながら感謝の気持ちを込めて食べて欲しい」と呼びかけた。



2. 組合長が担い手訪問！（役員による対話運動）

組合員との対話の充実を図るため、栗原組合長が組合員のもとへ訪問し意見交換した。

この日は倉吉スイカ生産部会の副部会長と倉吉秋冬野菜生産部の役員のもとを訪れ、JAに対する意見や現在の生育状況などについて聞き取りを行った。

副部会長からは「新規就農者の受入課題」について、秋冬生産部役員からは「JA営農指導員の指導体制の強化」などの相談や要望が挙げられた。栗原組合長は「組合員の状況と意思を把握し、



今後の J A 施策に反映させていく」と話した。

今後も継続的に訪問し対話を通じて J A の取り組みについて理解を深めて頂き、J A 事業の改善に活かしていく。併せて組合員のニーズに対応して行く方針で、基本的に生産者からの希望に応じて営農支援職員を派遣し、急な病気などで作業が困難な場合には優先的に支援していく。

3. 「鳥取らっきょう」「鳥取スイカ」を人気動画クリエイターの SNS で紹介！ (販売戦略の SNS での反響大)

県産物の PR が若年層の目に留まることで新たな消費者・ファンを獲得するために、人気動画クリエイターによる SNS での発信を行った。

第一弾はインスタグラムで「腸活」をテーマに鳥取県産らっきょうを取り上げた。疲労回復の効果や食物繊維が豊富といったらっきょうの効能や、料理のアレンジ方法としてらっきょうを使ったタルタルソースのチキン南蛮を紹介した。

第二弾はツイッターで特産のスイカを PR し、フォロワー 111 万人に発信され注目を集めた。栗原組合長は「予想以上の反応に驚いている。出荷のピークを迎え購買力の増大に期待したい」と話し、梨などの特産品でも活用を検討している。

6 月下旬からは、クリエイターの写真付きのポップを全国の主要量販店掲示を予定していて、更なる消費者拡大とファンの獲得を目指す。

J A 鳥取中央は県内有数のスイカの産地を抱え今シーズンは販売金額 31 億円を目指す。新型コロナウイルスの影響で県外の大消費地での販売に苦戦している。このピンチをチャンスに変えるため、SNS を販売活動に取り入れることで若年層への周知拡大を期待している。

同 J A でも 5 月から公式インスタグラムを開設した。旬の農産物の情報やイベントの PR・ハッシュタグを活用したキャンペーンなどを打ち出しながら発信していく。



・「鳥取らっきょう」投稿画面→ www.instagram.com/p/CBNkB-IpLfd/

・「鳥取スイカ」投稿画面→ twitter.com/seikintv/status/1273814067208024066